# 伊藤青少年育成奨学会 奨学会だより

ITO YOUTH SCHOLARSHIP FOUNDATION

2008.10.1 vol.7 年2回発行（4月・10月）



■平成 20 年度スポーツ振興事業贈呈式が行われました
■先輩からの便り紹介
■奨学生の声の紹介
■奨学会 小板清治理事が「岐阜県芸術文化顕彰」を受賞されました
シリーズ 第7回 この本をあなたにも薦めたい


## 平成20年度スポーツ振興事業贈呈式
# スポーツ振興事業費など総額1,500万円を支援

財団法人
伊藤青少年育成奨学会
理事長　伊藤 喜美

奨学会は去る7月16日、多治見市東町のセラミックパークMINOで、平成20年度の贈呈式を行った。奨学会は平成12年設立後、積極的な活動をしている高校の運動部を対象に、毎年部活動費の贈呈を実施している。贈呈式には来賓として岐阜県教育委員会　松川禮子教育長をはじめ学校関係者ら約40人が参加。伊藤理事長は「スポーツを通じて心身ともに豊かな人間性の育成に役立ててもらいたい。今後も青少年育成に力を注ぎたい」とあいさつした後、学校関係者らに目録を手渡した。

贈呈式の概要は次のとおり

**援助対象団体**

別紙のとおり

・県内高等学校20校（22運動部）

・岐阜県高等学校体育連盟並び岐阜県中学校体育連盟

**選考理由**〈本年度対象団体について〉

応募申請のあった高等学校運動部から、大きな目標を持ち、日頃から積極的な活動を実施している運動部や、十分な活動時間が持てない中、活発に活動している特別支援学校運動部等に対して支援する。

また、高体連・中体連の競技会に対しても支援する。

**伊藤喜美賞**

設立の趣旨

我が国のよき伝統や固有の歴史・文化や教育の在り方を継承、発展させるために積極的に取り組んだ個人または団体の諸活動が、青少年の健全育成に資するのみならず、地域に於ける人づくりや相互理解、ひいては、良い風土・文化や産業の向上などに大きく貢献したと評価されることに対して表彰する。

平成20年度対象団体並びに個人

①恵那農業高等学校　世界ラン展への出展

長年にわたり優秀な成績を収めたことに対し表彰する。同校には、世界ラン展への出展を通して人材育成に努力されるとともに、岐阜県並びに地域の発展に多大な貢献を続けている。

②岐阜県農業大学校平成20年度卒業生　長尾隆司

岐阜県農業大学校が推進している県下の優良農業者の育成趣旨に賛同し、同校より推薦された者に対して、初めての試みとして助成金を支給する。

**最近5年間の奨学会事業費**　単位：千円

| | 奨学金 | スポーツ | 国際交流 | その他(伊藤喜美賞を含む) | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成16年度 | 25,560 | 10,000 | 13,000 | 1,300 | 49,860 |
| 平成17年度 | 26,280 | 11,500 | 3,000 | 4,000 | 44,780 |
| 平成18年度 | 29,880 | 10,000 | 3,000 | 5,000 | 47,880 |
| 平成19年度 | 34,320 | 10,100 | — | — | 44,420 |
| 平成20年度 | 36,360 | 13,000 | 1,500 | 3,500 | 54,360 |
| 累計 | 152,400 | 54,600 | 20,500 | 13,800 | 241,300 |

※設立からの事業費　359,300千円

※平成19年度は、恵那市へ建築費10億円の図書館並びに5,000万円の書籍並びに運営基金として700万円を寄贈しております。

2008年(平成20年)7月17日　木曜日　岐阜新聞

## 県内20高校に奨学金

伊藤青少年育成奨学会 スポーツ活動推進

伊藤青少年育成奨学会（理事長・伊藤喜美バロー相談役名誉会長）は十六日、多治見市東町のセラミックパークMINOで、スポーツに積極的に取り組む県内高校（二十二運動部）に本年度分の奨学金計一千万円を贈呈した。

同会は一九九九（平成十一）年に設立。全国大会で実績を残すなど、積極的に活動する運動部などに毎年奨学金を贈っており、今回で九回目。申請があった三十八校（七十三運動部）から選考した。

贈呈式には同会や運動部指導者ら約四十人が出席した。

伊藤理事長は「スポーツを通して、その後の人生を生きる術（すべ）を学べる。奨学金が青少年育成に役立てば幸い」などとあいさつし、運動部指導者一人一人に目録を手渡した。

また、来年一月の全国高校スケート選手権など県内開催のスポーツイベント二件に対する支援金贈呈や、青少年育成の貢献で伊藤喜美賞を受賞した一団体・一個人への表彰もあった。

高校スポーツ指導者に奨学金の目録を手渡す伊藤喜美理事長（左）＝多治見市東町、セラミックパークMINO

### 平成20年度(財)伊藤青少年育成奨学会スポーツ振興事業等被援助団体及び援助額

① 県内の高校運動部に対する支援

| 学校名 | 部名 | 金額(円) |
|---|---|---|
| 岐阜総合学園高等学校 | 男子ホッケー | 500,000 |
| 岐阜城北高等学校 | 硬式野球 | 800,000 |
| 県立岐阜商業高等学校 | 水泳 | 300,000 |
| 岐阜各務野高等学校 | バレーボール | 520,000 |
| 岐阜農林高等学校 | 馬術 | 780,000 |
| 羽島北高等学校 | 水泳 | 500,000 |
| 岐阜盲学校 | 陸上競技 | 100,000 |
| | 柔道 | 400,000 |
| 大垣商業高等学校 | 陸上競技 | 500,000 |
| 大垣工業高等学校 | 陸上競技 | 300,000 |
| 大垣特別支援学校 | サッカー | 150,000 |
| 加茂高等学校 | ボート | 500,000 |
| 東濃実業高等学校 | 卓球 | 450,000 |
| 多治見工業高等学校 | 陸上競技 | 500,000 |
| 土岐商業高等学校 | 硬式野球 | 500,000 |
| 恵那高等学校 | ボート | 400,000 |
| 恵那農業高等学校 | スケート | 500,000 |
| 中津高等学校 | 硬式野球 | 500,000 |
| 中津商業高等学校 | 弓道 | 300,000 |
| | レスリング | 700,000 |
| 麗澤瑞浪高等学校 | 水泳 | 400,000 |
| 飛騨高山高等学校(通信制) | 卓球 | 400,000 |
| 合計　20校・22運動部 | | 10,000,000 |

② 県内で開催されるスポーツイベントに対する支援

| | | |
|---|---|---|
| 岐阜県高等学校体育連盟 | 第58回全国高校スケート選手権　岐阜県実行委員会 | 2,000,000 |
| 岐阜県中学校体育連盟 | 第46回全国中学校スキー大会　岐阜県実行委員会 | 1,000,000 |
| 合計 | | 3,000,000 |

③ その他(伊藤喜美賞)

| | | |
|---|---|---|
| 恵那農業高等学校 | 世界ラン展出展への支援 | 1,500,000 |
| 長尾　隆司 | 岐阜県農業大学校 平成20年度卒業生 | 500,000 |
| 合計 | | 2,000,000 |

総計　15,000,000円

## シリーズ —第7回— この本をあなたにも薦めたい

財団法人
伊藤青少年育成奨学会
監事 伊藤 邦雄

**「こころ」夏目漱石著**　どうしてなのか、なぜなのか！　今、漱石が注目されているようです

**「高瀬舟」森鷗外著**　どうしてそんなに「さわやか」になれるのでしょうか？ 年に一度か二度読んで『心の洗濯』を！

**「夢をかなえるゾウ」水野敬也著**　なるほど、よしチャレンジしよう！

我が青春は、野球、野球の毎日で、終われば皆でわいわいがやがやで、恥ずかしいことですが、静かに読書をするという時間を持つことができませんでした。

社会人となってからも、税理士試験にチャレンジしていたため、仕事と試験勉強に埋没して、これまた実務書中心の生活となり、心静かに読書ということもままなりませんでした。今思えば、息抜きは十分にしていたのですから、もっと本に親しめたはずであり、助言もありました。

そういうことで若い皆様方には、じっくりと古典、歴史書を読み込んでほしいと思います。

中高年といわれる年齢になってから本に親しみを持つようになり今はあらゆるジャンルの本を読むようにしております。

私のお薦めの古典は、「こころ」「高瀬舟」の2冊ですが、今年ベストセラーとなった「夢をかなえるゾウ」は、本のなかに夢をかなえるための教えが書かれており面白かった。

本を読みましょう。心の肥やしになりますように。

「こころ」
著者：夏目漱石　発行所：新潮社
「山椒大夫・高瀬舟」
著者：森鷗外　発行所：新潮社
「夢をかなえるゾウ」
著者：水野敬也　発行所：飛鳥新社

## 奨学会 小板清治理事　平成19年度「岐阜県芸術文化顕彰」を受賞されました

2008年(平成20年)5月25日　日曜日　岐阜新聞

### 奨学会 小板清治理事 平成十九年度「岐阜県芸術文化顕彰」を受賞されました

郷土史研究とまちづくり活動の推進に尽力したとして県芸術文化顕彰を受賞した小板清治さん＝恵那市大井町の受賞祝賀会が二十四日、恵那市大井町の恵那峡グランドホテルで開かれた。

小板さんは、恵那市のほか岐阜市、多治見市、中津川市などの小中学校に勤務、校長などを務めながら、郷土史の研究に携わった。恵那市史、中津川市史の編さんに当たったほか、東濃地方のさまざまな郷土史研究を続け、棚田サミット、縄文サミットなど地域住民のまちづくり活動も支えた。

祝賀会には小板さんがかかわる団体関係者ら約百五十人が出席。発起人を代表して伊藤喜美恵那市名誉市民が「小板さんの受賞は多くの市民の喜び。健康に留意され、ますますのご活躍を願います」とあいさつ。

小板さんは「郷土史研究が認められたのは多くの住民から教えられたから、まちづくりについては、仲間がいたからだと思う。感謝しています」とお礼を述べた。（長瀬勝巳）

「皆さんに感謝したい」と喜びを語る小板清治さん＝恵那市大井町の恵那峡グランドホテル

## 留学を終えて

春田 桃介　早稲田大学国際教養学部3年（名古屋高等学校卒）

6月末にアメリカ留学を終え、改めて有意義で充実した1年であったと確信しているところです。

現地でも、日本をはじめ話題の中国等、めまぐるしく映り変わる世界情勢を見聞きすることが出来ました。日本に住み、日本人の感覚で得る政治・経済の受け止め方と、アメリカに住み、アメリカ人の感覚で得るそれとはやはり文化・民族の違いから来る多様性に驚きはありました。アメリカ大統領予備選では、クリントン前大統領の演説を聞きましたが、そこでも民主、共和両陣営に対するカリフォルニア市民の思いは現地に居たからこそ得られる空気を感じることが出来ました。少々大袈裟ですが、私は心に「日の丸」背中に「日の丸」を掲げ、「日本人」としての「誇り」を大切にしていこうと決めて日本を旅立ちました。そ
べてきました。そうすることで、この留学はあらゆる面で収穫を得られただけでなく、今後の私の将来への大きな指針となりました
秋にはボストンへキャリアフォーラムに行く予定です。急速に国際化が進むこの時代、私に何が出来るのか、自問自答の日々が続
このような貴重な体験を得られたことは、伊藤青少年育成奨学会、伊藤喜美様はじめ家族、友人、知人の協力あってのことです。
心より感謝申し上げます。

中央が春田桃介君

## お便りをお待ちしています

奨学会では皆様からのご意見・ご質問・感想などのお便りをお待ちしています。
ハガキまたはE-mailで下記の宛先までお送りください。

## 奨学会からのお知らせ

平成20年度後期奨学金支給のための「生活学業状況報告書」の提出は11月1日～20日となっておりますので期限厳守で提出して下さい。


**財団法人 伊藤青少年育成奨学会事務局**
〒507-0062 岐阜県多治見市大針町661-1
TEL 0572-20-0800(直)　FAX 0572-29-1168
E-mail:webmaster@ito-zaidan.or.jp
URL:http://www.ito-zaidan.or.jp/


発行：財団法人 伊藤青少年育成奨学会
印刷：トーヨー印刷株式会社

# 先輩からの便り

紙面の都合により一部の方からの便りを掲載しました。

## 2008年3月ご卒業の方からのお便りです

### 丹羽 亜由美

宮崎公立大学人文学部国際文化学科卒

去る3月24日、私は宮崎公立大学人文学部国際文化学科の全課程を修了し、人文学の学位と高等学校教諭第1種免許を取得することができました。これも理事長の伊藤喜美様、そして伊藤青少年育成奨学会の皆様のおかげと、心より感謝申し上げます。思い返してみると、4年間はあっという間で、未だ学生であるような気がします。しかし、4月に入り、いま私は名古屋市内の結婚式場で社会人としてスタートをきっています。学生時代4年間続けたアルバイトの経験から、一生に一度の大切な日のお手伝いをさせていただくやり甲斐に惹かれ、ブライダル業界を選びました。配属も決まり、一日も早く披露宴のプロデュースができるよう、毎日研修に励んでいます。地元岐阜から遠く離れ、南国宮崎で過ごした4年間は、今、とても大切な思い出となっています。

私には、宮崎はもとより九州においても親類や友人は一人もいませんでした。ですから、進学先が他であったら、宮崎に住むどころか訪れることさえなかったかもしれません。慣れない一人暮らしと、容易には帰省できない距離に、どうしようもない寂しさを感じたこともありました。しかし、日が経つにつれ、「日向時間」という宮崎独特のゆったりとした雰囲気に癒され、人々のあたたかさに助けられ、新天地・宮崎での生活を通していかに自分の世界が狭かったのかということ、そして親元で18年間生活できたことの幸せを実感しました。そして、「宮崎に来て本当に良かった」と思うようになるにつれ、「自分の世界を広げる最高のチャンスなのだから」と、どこへでも足を運び、誰とでも接し、未経験のことにどんどん挑戦するように努めました。

例えば、文化祭では実行委員を2年間務め、苦楽を共にした大切な仲間ができました。裏千家茶道部に入部し、1年間は部長も務め、先生に連れて行って頂いたお茶会では御家元のお点前を拝見させて頂くなど、貴重な時間を過ごしました。ボランティアとして参加した青島太平洋マラソンでは、全国でも有名なマラソン大会を支えていくのにどれだけのスタッフが動かなければならないのか、その大変さを知りました。4年間続けたホテルでのアルバイトでは、サービス業界で働くことの厳しさや心遣いの大切さを学び、忍耐力が養われました。タイや中国を訪れた際には、世界に広がる貧困や格差を肌で感じ、卒業論文の作成や自分の認識を変えるのに大きく役立ちました。

これらのことはほんの一部で、私にとっての大学生活は常に発見の連続でした。失敗もありましたが、後悔するのではなく、悩むよりも反省して次に進むことが大切だと気付けたこともひとつの発見です。これから社会人として生活するにあたり、学生時代とは比べ物にならない挫折を経験することもあるかもしれません。しかし、失敗も糧とする強い心をもって、成長していきたいと思っています。

学生生活と一言でいうには言葉が足りないほど多くの経験をさせて頂いたこと、あらためて御礼を申し上げます。感謝の気持ちでいっぱいです。理事長・伊藤喜美様、伊藤青少年育成奨学会の皆様、本当にありがとうございました。

### 西尾 奈々

福島大学経済学部卒

拝啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度は、大学進学にともない、4年間ご支援いただき、ありがとうございました。おかげ様で、この春福島大学を卒業し、岐阜に戻って参りました。

この4年間の大学生活では、初めての一人暮らしや寮での生活、講義や演習といった日々の授業、部活動などを通して多くの大切な仲間と出逢い、楽しく充実した時間を過ごし、多くのことを学び、経験することができました。

4月からは、県立高校の商業科常勤講師として働くことになりました。福島大学で学んだことをいかし、社会人として、教員として、頑張っていきたいと思っております。奨学会からの奨学金のおかげで、充実した毎日を送ることができたことに、深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

### 楓　愛

静岡大学情報学部情報社会学科卒

2004年4月に静岡大学に入学し、2008年3月に卒業するまでお世話になりました楓　愛です。ご援助のお陰で、無事大学を卒業することができ、社会人として新しい生活を送っています。税理士法人に入社しましたが、まだまだ基本的な事を学ぶ毎日です。日々の業務を確実にこなせるようになりましたら、税理士の資格を目指したいと考えています。このような目標を目指せるのも、本当に貴財団による奨学金のお陰であり、心から感謝いたしております。地元への貢献という貴財団のお考えを受け、私もいずれ、地元に貢献をしたいと考えています。そのためにこれからも、多くのことを学び、力をつけていきたいです。最後に、改めて、御礼申し上げます。ありがとうございました。

# 奨学生の声

2008年4月までにいただいたお便りです。

### 永井 美帆　名古屋大学 医学部保健学科4年（恵那高等学校卒）

ふり返ってみると本当に様々なことを学んだ密度の濃い3年後期でした。特に終末期にある患者さんと過ごした1ヶ月間、そして受け持ちの産婦さんの出産に立ち合わせていただいたことは、一生忘れられない経験になったと思います。それぞれの領域で、疾患や治療について、また看護過程を展開していく中で、必要な知識や技術を何度もくり返し学ぶことができました。そしてその中で、患者さんと向き合うことを通して自分と向き合った半年間でもあった気がします。記録や計画に追われながらふと自分の生活や健康、家族、友人との関係はどうだろうとふり返る機会が多くありました。終末期を生きる患者さんと向き合いながら、生きる、そして死ぬということはどういうことなんだろうと自問自答して悲しくなったり、産婦さんと過ごしながら、女性が心身ともに母親へと変化していく過程も見たり、感じたり、生まれたばかりの小さな命に触れたり……。つらいこともたくさんありましたが、これらの体験は、医療職に就く者として、また、一人の人間として私が生きていく人生の中で、かけがえのない宝物です。看護とは、治療など身体面の援助を行うと同時に、その人という人間と向き合い、常に考え、方向を模索していくことでもあるんだなと感じた後期でした。

**奨学会からのコメント**

出産の現場、終末期の現場、想像するだに身の引き締まる思い。学ぶということは他者の声を真摯に聴くということに尽きます。素晴しい三年後期でしたね。

### 澤田 昇平　東京農工大学 農学部・地域生態システム学科3年（岐阜聖徳学園大学附属高等学校卒）

今は授業のほとんどが専門科目になってきてとても楽しいです。

4月で3年生になり、自分の所属する研究室の決定が近付いています。私は今のところ森林科学分野の砂防工学を専攻したいと考えており、今年度は森林科学系の授業がかなり多いです。砂防工学とは、森林にかけるダムの設計や降雨による土壌流出などを学ぶところで、私は森林と気象の関係を研究したいと思っています。

昨年よりも大幅に授業の数が増えたのですが、なんとか大学の授業とは別の気象分野の勉強も進めて将来の研究に活かしたいです。この春から大学の演習林での泊まりこみの実習が始まり、樹木の種類を覚えたり、育林学や砂防計画の実践的な事を学びます。現在の日本の林業は活力を失いかけており、様々な問題を抱えている中で私達に何ができるかを考えています。

**奨学会からのコメント**

この日本では森林なくして山も海もエコロジーもないのはご承知のとおり。要は治水。森林工学と気象の関連性の追求は、昨今とくに待たれるところです。

### 今井　亮　東京大学 工学部物理工学科3年（恵那高等学校卒）

今年の3月で教養課程を修了し、4月から専門課程に進学しました。僕の進学先は、工学部の物理工学科です。計数工学科とともに応用物理部門を形成する学科で、学科長の言葉を借りれば、時代の流行に流されない工学の基礎を学ぶ学科です。

専門の授業自体は2年の後半から始まっていたのですが、本郷キャンパスに通うようになって、いろいろなところで専門に進んだのだということを実感するようになりました。例えば、教養課程時代は、キャンパスに講義専用の建物があって、そこで授業をうけていたのですが、今度からは講義をうける建物の中に研究室もあり、そこに先生方がいらっしゃいます。身近なところで研究が行われているわけです。

先輩、先生方によれば、3年生の前半は授業も多く、一番大変な時期だそうです。しかしまた、専門の基礎を学ぶ大切な時期でもあります。大変でも、一生懸命がんばっていきたいと思っています。

**奨学会からのコメント**

「少にして学べば壮にして為すこと有り」佐藤一斎の言葉どおりの学生生活なのを喜んでいます。今日明日に役立つ学習は専門学校の領域。日本の最高学府がそうあっては国が滅びます。

### 馬渕 理絵　名古屋芸術大学 音楽学部演奏学科3年（県立岐阜商業高等学校卒）

3年生になり気が引き締まってきました。1、2年生で学んだ音楽通論や和声学を基礎として、3年生では楽式論や対位法を履修し、音楽がどう作られているかを学んでいきます。私はクラリネットという楽器を専攻していて、西洋の音楽を学んでいることになります。日本で育った私が西洋の人と同じ音楽をするためには、その国の人達の文化や考え方を理解しなければいけないと思い、私の学校で履修することができるドイツ語、フランス語、イタリア語の全てを履修し、少しでも文化を理解できるよう頑張っています。また、アンサンブル能力を高めるために、木管五重奏を組みました。どのように音楽をつくっていくか本当に頭を悩ましますが、人を感動させられる演奏ができるように追求していきたいと思います。

現代は多様な音楽が混ざり合っているので、日本の音楽や民族音楽など、いろいろな音楽に目を向けていきたいと考えています。そして、教育実習に行った時に何かを伝えられるようにしっかり勉強しておこうと思います。

**奨学会からのコメント**

我々は日本人であるにもかかわらず、日本の音楽をないがしろにしてきた。教育の現場でもそのことを踏まえて教えてください。大切なことだと思います。

### 小澤 沙和　津田塾大学 学芸学部英文学科2年（岐阜高等学校卒）

大学進学をし、受験のための英語とはまた違ったコミュニケーションの手段としての生きた英語に触れ、ますます英語が好きになりました。津田塾大学では英語といっても、ライティング、スピーキング、リスニング、リーディング等、様々な授業があります。リスニング、スピーキングに関しては、当初、留学経験のある学生の英語力に圧倒されながらも、分からないことは直接、講師に尋ねたり、予習・復習にかかさず取り組むことで自分の理解力が徐々にあがっていくのを実感することができました。2年次ではTOEIC試験にも積極的に挑戦し、英語力の向上に貪欲な姿勢で取りくみたいと思います。また今年度は、英語以外は法学、現地社会の勉強をしたいと考えています。というのは、この春、カンボジアに行った際、プノンペン大学の学生に戦後荒廃した日本が今や経済大国にのしあがった背景について尋ねられたことが一因です。考えもしなかった問いかけに、この時、私はまともな答えを返すことができませんでした。言語は手段であって目的ではないと思います。自分は外国人に日本人として何を伝えたいのだろうか。やはり外国の人とコミュニケーションをとるうえで自分の国に関わる教養を磨いていきたいと思いました。

**奨学会からのコメント**

プノンペン大学の学生の問いかけには胸を突かれました。他者に能く答えることは、自らを能く見ること。能くカンボジア人であれ。能く日本人であれ。地球人などという概念はない。

### 櫻井 万祐子　名古屋大学 理学部1年（関高等学校卒）

今、私が一番面白いと思う授業は、物理学実験です。

名古屋大学では、入学したての理科系学生のための物理の授業として、物理学実験と、古典力学と電磁気学を中心とする講義が開講されています。物理学実験は私達、学生自身が主体的に実験を行うことに重点をおき、現象の観察や物理量の測定を自ら行うことによって、実証科学の主軸である実験のことはじめを行うことを目的としています。

この実験は、近年の最先端の実験研究と直結するものではないですが、講義からは得られない多くのものを学び、目の前で起きる様々な現象の不思議さ、実験そのものの面白さを味わうことができます。

今まで行った実験の中では、霧箱を用いて、日常生活では見られないラドンガスのα崩壊、宇宙由来、地球由来のμ粒子と電子の飛跡を実際に自分の目で観察したことが、とても感動的でした。

**奨学会からのコメント**

最先端の実験研究といえど初歩的実験の基礎がなければ先へ行って応用が利かない。勘が働かない。霧箱の感動があなたの原点であることを忘れないで。